

各産業分野で掲げた4年後の目標達成に向けた確認資料(水産分野)

◆分野を代表する目標【出発点・直近値・H30到達目標・4年後(H31)の目標】

漁業生産額(宝石サンゴを除く)	出発点(H25) : 446億円 ⇒ 直近値(H28) : 420億円 ⇒ H30到達目標 : 457億円 ⇒ 4年後(H31)の目標 : 460億円
水産加工出荷額	出発点(H25) : 173億円 ⇒ 直近値(H28) : 199億円 ⇒ H30到達目標 : 200億円 ⇒ 4年後(H31)の目標 : 200億円

戦略目標等	4年後(H31)の目標	H30到達目標 (出発点及びH29実績比)	戦略目標等を達成するための H30の重要な施策・取組	上半期の進捗状況		見直しの方向性
				H30到達目標に対する現状	現状分析	
鮮魚の県内市場取扱額	H26:85億円 →H31:90億円以上 (+5億円)	H30:90億円以上 (H26実績比+5億円) (H29実績比+3億円)	<ul style="list-style-type: none"> ◆漁業経営の効率化 ◆新規就業者等の設備投資への支援 ◆黒潮牧場15基体制の維持 ◆カツオ一本釣り漁業の経営安定対策等の強化 ◆生産工程の改善による生産性の向上 ◆定置網漁業の安定的な経営体制の確立 ◆既存養殖業の振興 ◆大敷組合など漁業経営体の法人化 ◆法人等の生産現場への参入の促進 	<p>○県内市場取扱額: 55.5億円(H30.1~7) (昨年同期比0.5億円増)</p> <p>【主な漁業種類の県内市場水揚金額】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大型定置網漁業: 15.7億円(昨年同期比+1.9億円) ●カツオ一本釣り漁業: 3.3億円(昨年同期比▲2.9億円) ●メジカ釣り漁業: 5.7億円(昨年同期比+3.0億円) ●イワシシラスパッチ網漁業: 6.1億円(昨年同期比+3.3億円) <p>【主要な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮牧場14号の更新及び16号の設計に着手 ・急潮予測のためのリアルタイムブイの設置(6/26)及び情報提供の実施(3回) ・中型まき網の事業承継及び新規参入に向けた事業計画の承認(7/23) 	<p>○県内市場取扱額 昨年に比べてカツオ一本釣り漁業が減少した一方、メジカ釣り漁業やイワシシラスパッチ網漁業等が好調であったため、県内市場取扱額は昨年同期を0.5億円上回った。</p> <p>【主な漁業種類の県内市場水揚】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大型定置網漁業: 昨年同期比+1.9億円 ⇒ 3月から4月にかけてブリがまとまって漁獲されたことで昨年同期に比べ数量(139%)、金額(113%)はともに増加 ●カツオ一本釣り漁業: 昨年同期比▲2.9億円 ⇒ 室戸岬沖で黒潮が離岸傾向で推移したことや寒波による低水温の影響により、カツオの漁場が形成されにくい海況条件であったことから、昨年同期に比べ数量(76%)、金額(53%)はともに大きく減少、金額の減少はアニサキスの影響も一因と推測 ●メジカ釣り漁業: 昨年同期比+3.0億円 ⇒ 黒潮が足摺岬沖を接岸傾向で推移したことや漁場が形成され昨年同期に比べ数量(186%)、金額(209%)はともに大きく増加 ●イワシシラスパッチ網漁業: 昨年同期比+3.3億円 ⇒ 黒潮が足摺沖で接岸し、室戸沖で離岸する等、シラスが滞留しやすい海況条件であったことから昨年同期に比べ数量(138%)は増加、金額(215%)は黒潮の大蛇行による東日本のシラスの不漁により大きく増加 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リアルタイムブイの導入により急潮予測精度の向上に取り組んでいるところ ・中型まき網漁業に新規参入した民間企業は9月には操業開始予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・釣り漁業の確実性を上げるための取組として、黒潮牧場の高度化(鳥レーダー等の付設)や水産試験場による漁況予測システムの開発について検討を開始

戦略目標等	4年後(H31)の目標	H30到達目標 (出発点及びH29実績比)	戦略目標等を達成するための H30の重要な施策・取組	上半期の進捗状況		見直しの方向性
				H30到達目標に対する現状	現状分析	
人工種苗の供給尾数	<p>【カンパチ】 H26:0尾 →H31:50万尾 (+50万尾)</p> <p>【クロマグロ】 H26:0尾 →H31:10,000尾 (+10,000尾)</p>	<p>【カンパチ】 H30:5万尾 (H26実績比+5万尾) (H29実績比+0万尾)</p> <p>【クロマグロ】 H30:6,000尾 (H26実績比+6,000尾) (H29実績比△1,700尾)</p>	<p>◆人工種苗量産体制の確立 ・関係機関との連携及び生産委託等による人工種苗の量産 ・人工種苗の活用による既存養殖業の振興</p> <p>◆試験研究機能の充実・強化 ・養殖振興に関する技術開発と調査研究の実施 ・施設整備の実施</p>	<p>【カンパチ】 H30:-</p> <p>【クロマグロ】 H30:-(10月末頃把握が可能) ・受精卵生産委託では、産卵不調のまま終了 ・中間育成委託では、計5,500尾を冲出し</p>	<p>【カンパチ】 ・H30は種苗生産を実施する民間企業が、マダイ種苗を増産する必要によりカンパチの種苗生産を取り止め</p> <p>【クロマグロ】 ・7月豪雨の影響による養殖場の濁度の上昇、塩分及び水温の低下により、産卵時期の成育環境が悪化したために、産卵条件が整わなかった可能性あり</p>	
新規就業者数	<p>(H24-26)の平均:37名 →50名/年 (+13名)</p>	<p>H30:50名/年 (H26実績比+13) (H29実績比+6)</p>	<p>◆移住促進策と連携した就業希望者の掘り起こしや研修制度の充実 ◆法人等の参入による担い手育成の新たな受け皿づくり ◆就業時の設備投資、資金調達への支援 ◆新規就業者が参入しやすい環境づくり</p>	<p>・漁業就業セミナー参加者:2名(6月) ・漁業就業支援フェア等での面談者:25名(8月末時点) ・短期研修実施者数:11名(前年同期:12名(H29.4~8月)) ・長期研修実施者数:14名(新規漁業就業者支援事業10名、担い手育成団体支援事業4名)(前年同期:14名(H29.4~8月)) ・新規就業者の漁船取得:1名(前年同期:5名(H29.4~9月)) ・座学研修会:(中央地区で9/12に開催予定) ・漁業就業支援アドバイザー2名との委嘱(4月~)</p>	<p>・短期、長期研修及び新規就業者の漁船取得数とも前年同期を下回って推移 【要因・課題】 ・就業フェア等での情報発信やフォローが不十分 ・研修希望者と地域とのミスマッチ(指導者不足) ・中古漁船が全国的に不足(併せて船価が上昇)</p>	<p>就業希望者をワンストップで支援する任意団体「高知県漁業就業支援センター(仮称)」の立ち上げ(10月予定)等による支援体制の抜本的な見直し</p>
衛生管理の高度化に対応した加工場の割合	<p>【衛生管理の高度化に対応した加工場の割合】 H26:24% →H31:100% (+76%)</p> <p>【海外HACCP対応型の加工場】 H26:0件 →H31:3件 (+3件)</p>	<p>【衛生管理の高度化に対応した加工場の割合】 H30到達目標:75% (H26実績比+51%) (H29実績比+25%)</p> <p>【海外HACCP対応型の加工場】 H30到達目標:0件 (H26実績比+0件) (H29実績比+0件)</p>	<p>◆既存加工施設の衛生管理体制の強化 ◆HACCPに対応した加工施設の立地促進</p>	<p>◆既存加工施設の衛生管理体制の強化 ・水産流通課の支援する水産加工事業者の県版HACCP研修受講:8事業者 ・水産流通課の支援する水産加工事業者の県版HACCP認証取得状況(ステージ2:6事業者、ステージ3:3事業者) ◆HACCPに対応した加工施設の立地促進 ・(株)高知道水が宿毛加工施設整備工事に着工(5/21) ・(株)土佐西南丸のHACCP担当者が大日本水産会のHACCP研修受講(5/23~25)、コンサルティング受講(8/8)</p>	<p>計画は概ね順調に進捗している 【課題】 ◆既存加工施設の衛生管理体制の強化 ・HACCPへの対応が遅れている事業者への呼びかけ強化 ◆HACCPに対応した加工施設の立地促進 ・施設の操業に向けた人材の確保</p>	
養殖魚の前処理加工	<p>【出荷額】 H26:5億円 →H31:29億円 (+24億円)</p> <p>【雇用者】 H26:58名 →H31:120名 (+62名)</p>	<p>【出荷額】 H30到達目標:12億円 (H26実績比+7億円) (H29実績比+1億円)</p> <p>【雇用者】 H30到達目標:82名 (H26実績比+24名) (H29実績比+0名)</p>	<p>◆既存加工施設の高度化 ◆【再掲】HACCPに対応した加工施設の立地促進</p>	<p>◆既存加工施設の高度化 ・ブリの前処理加工50,631尾(7月末時点) ・マダイの前処理加工7,432尾(6月末時点) ・土佐社中が高知県版HACCPステージ3の認証取得 ・水産加工事業者1社が事業戦略の強化等を図るため地産地消・外商課が主催する第1回商品開発力・販売力アップ塾へ参加予定 ◆【再掲】HACCPに対応した加工施設の立地促進 ・(株)高知道水が宿毛加工施設整備工事に着工(5/21) ・(株)土佐西南丸のHACCP担当者が大日本水産会のHACCP研修受講(5/23~25)、コンサルティング受講(8/8)</p>	<p>・ブリの前処理加工前年同期比117% ・マダイの前処理加工前年同期比85% 計画は概ね順調に進捗している 【課題】 ◆既存加工施設の高度化 ・加工原魚の安定確保 ◆【再掲】HACCPに対応した加工施設の立地促進 ・施設の操業に向けた人材の確保</p>	

戦略目標等	4年後(H31)の目標	H30到達目標 (出発点及びH29実績比)	戦略目標等を達成するための H30の重要な施策・取組	上半期の進捗状況		見直しの方向性
				H30到達目標に対する現状	現状分析	
「応援の店」 ・県内参画事業者の出荷額	H27:1億円 →H31:4億円 (+3億円)	H30到達目標:3.5億円 (H27実績比+2.5億円) (H29実績比+3千万円)	<ul style="list-style-type: none"> ◆高知県産水産物の取引に繋げるため、可能性の高い店舗を選定し直接訪問を実施 ◆新事業として、「応援の店」を活用した高知県産養殖マグロフェアの開催及び訪日外国人をターゲットとするプロモーションを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「応援の店」の登録:812店舗(7月末) ・「応援の店」訪問によるニーズ収集:60店舗(7月末) ・消費地市場での外商活動:3回・3店舗(7月末) ・高鮮度処理指導の指導:3回・3定置(7月末) ・「応援の店」と「県内参画事業者」をつなぐ情報交流広場(Facebook)の開設(テスト運用開始7/17、運用開始8/1):「応援の店」30店舗、県内事業者14業者が登録済(7月末) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規登録となった「応援の店」を中心に産地見学会へ招待することで、マッチングを進める ・取引につながる可能性の高い店舗へのサンプル出荷等の実施 ・高鮮度処理魚のブランド化など新たな取組等により、取引額の増加が見込める 	
産地市場の集約化	H27:33市場 →H31:30市場 (△3市場)	H30:32市場 (H27実績比△1市場) (H29実績比△1市場)	<ul style="list-style-type: none"> ◆市場整備に係る協議会等を通じた市場統合に関する意識の醸成 ◆市場集約に係る情報の収集と市場関係者へのフィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀・鈴・伊田の市場統合を前提とした佐賀魚市場整備の基本構想を策定中 ・佐賀魚市場整備検討協議会を開催(4/10、7/10、9月予定) ・同会プロジェクトチーム会を開催(5/29、6/12、7/3、7/24、8/30) ・高知県漁協が以布利漁獲物の清水市場への集約に必要なトラックを整備中 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀魚市場整備は、基本構想や基本設計の策定と並行して、市場運営のルール作り等、ソフト面の検討が必要 ・以布利漁獲物の清水市場への集約はトラックが整備され次第行われる見込み 	
水産物の輸出	H26:0.2億円 →H31:3億円 (+2.8億円)	H30到達目標:2億円 (H26実績比+1.8億円)	<ul style="list-style-type: none"> ◆水産物の海外販路の開拓 ・国内外の見本市(H30:7回 予定)への県内事業者の出展支援、輸出商社等の産地視察の機会を通じた取引拡大支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆水産物の海外販路の開拓 ・直近の輸出額は、平成30年9月公表予定のH29年「高知県の貿易」(県内事業者へのアンケート調査)の調査結果を受けての検証となる。 ・高知県養殖魚輸出促進協議会による見本市の出展等を支援 (FHA(シンガポール 4月)、タイフェックス(バンコク 5月)、ベトフィッシュ(ホーチミン 8月)、シーフードエキスポアジア(香港 9月)) ※FHA、タイフェックスは地産地消外商課と連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の見本市への県内事業者の出展支援、輸出商社等の産地視察の機会を通じた取引拡大支援を継続 (H30:沖縄大交易会への県内出展事業者がいなかったため、7回→6回へ1回減) 	
高齢者等に対応した漁場づくり	H27:0か所 →H31:5か所 (+5か所)	H30:2か所 (H27実績比+2か所) (H29実績比+1か所)	<ul style="list-style-type: none"> ◆新たな設置希望箇所の掘り起こし(現在2市町で実施予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2か所(中土佐町久礼及び上ノ加江)へのつきいその設置について関係機関との協議を予定(9月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・H30到達目標どおりの実施を予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施箇所の掘り起こし ・漁協等が整備しやすい補助事業の検討

